

小濱 隆文 (恵寿総合病院 産院院長)

妊娠の諸症候に対応すべき治療は、母体ならびに胎児に対して安全であることが重要である。妊娠中に投与する薬剤は母体に副作用をきたさないばかりでなく、直接・間接的に子宮筋に作用し流・早産を誘発しないこと、催奇形性のないこと、さらには胎児・胎盤系に傷害をきたし胎児死亡に至らしめないことなどが肝要である。特に、最大の問題点は、胎児毒性、ことに奇形発生の可能性であろう。多くの医師や妊婦が、薬の使用に極端な不安と警戒を示し、必要な薬の使用も差し控える一種の萎縮診療が行われていることも希ではない。このような現状において、一般的な漢方薬はもちろん、他の代替療法は、副作用の少ないゆえに、妊娠の諸症候・合併症の極めて安全な治療効果が期待されうるものである。そのなかでも発酵食品、特に数十種類の植物原料を三年間発酵させつくりあげた植物発酵食品である万田酵素は、栄養学的な見地のみならず、医学的見地からもその有用性は、通常の薬品使用以上の効果を示す場合すらあり、近年注目されている。

妊娠中の合併症としては、切迫流産・早産、重症悪阻、妊娠中毒症、妊娠貧血、胎内発育不全、胎盤機能不全などがあげられる。これらのうちで、特に胎内発育不全は、マルトース療法・アミノ酸療法などがなされているが、いずれも十分な治療効果が認められるとは言い難い。

今回、この胎内発育不全の妊娠例を中心に、前置胎盤、重症妊娠中毒症、重症貧血、先天性胎盤 sulfatase 欠損症、前の2子が重度のアトピー皮膚炎である妊婦（前2子には後述する万田酵素抽出液配合スキンクリームを使用）などに万田酵素を投与し、妊婦の血圧・体重・検尿はもちろん、妊娠中・後期の超音波による胎児発育の計測、後期の胎盤機能（E3・HPL）分娩経過、分娩時アプガルスコア、新生児血中ビリルビン値の変動、一ヶ月健診時の状態までの全経過を観察した。また、妊娠中の皮膚掻痒症（特に、妊娠線の出現前に生ずる腹部の皮膚掻痒感を有する妊婦）に対して、万田酵素抽出液を配合したスキンクリーム（商品名：肌元気）を使用し、経過を観察した。以上の試験結果をいくつかの好成績交え、述べたいと考えている。